

III 調査結果のあらまし

第 53 回市政に関する世論調査の結果

1. 宇都宮市に対する感じ方について

(1) 宇都宮市の好き・嫌い

「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた【好き（計）】は9割強であった。

(2) 好きな理由

宇都宮市の好きだと思うところについては、「自然災害の少なさ」が5割弱で最も高く、次いで「買い物など日常生活の便利さ」「自然環境の豊かさ」「慣れ親しんだところ」と続いている。

(3) 嫌いな理由

宇都宮市の嫌いだと思うところについては、「交通マナーの悪さ」が4割弱で最も高く、次いで「街に活気がないところ」「交通渋滞の多さ」「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」と続いている。

2. 広報媒体の活用状況について

(1) 市政情報の各広報媒体の視聴状況

市政情報の各広報媒体の視聴状況については、「よく見る（聞く）」と「ときどき見る（聞く）」を合わせた【見る（聞く）ことがある（計）】は、「広報うつのみや」が8割半ばで最も高く、次いで「暮らしの便利帳」「インターネット（宇都宮市ホームページ）」と続いている。

(2) 「広報うつのみや」の入手方法

「広報うつのみや」の入手方法については、「新聞折込で自宅に届いている」が6割強で最も高く、「手に入れていない」は2割弱であった。

(3) 「広報うつのみや」を入手していない理由

「広報うつのみや」を入手していない理由は、「特に必要でないため」が5割であった。

(4) 「広報うつのみや」で読んでいる記事

「広報うつのみや」で主に読んでいる記事については、「市政情報」が6割半ばで最も高く、次いで「特集」「各施設の催し物」「情報カレンダー」「政策特集（広報うつのみやプラス）」「相談窓口」と続いている。

(5) 市ホームページや関連ページで詳細な情報を入手するためのQRコードや7桁のページIDの利用状況

市ホームページや関連ページで詳細な情報を入手するためのQRコードや7桁のページIDの利用状況は、「どちらも利用したことはない」が9割弱であった。

(6) 広報うつのみやに関する感想、取り上げてほしい話題・情報

生活、子育て、観光、LRT等の話題に関する意見のほか、新型コロナウイルス感染症関連情報の充実を求める声が多かった。

(7) 市のホームページを見るための主な手段

市のホームページを見るための主な手段は、「スマートフォン」が3割半ばであった。

(8) ホームページで知りたい情報はどこから探すか

ホームページで知りたい情報をトップ画面のどこから探すかについては、「キーワード検索」が約5割であった。

(9) ホームページで知りたい情報は探しやすいか

ホームページで知りたい情報は探しやすいかについては、「探しやすい」と「どちらかといえば探しやすい」を合わせた【探しやすい(計)】が約7割であった。

(10) ホームページに関する感想、充実してほしい機能や情報

公共施設や子育て、生活、税制、観光、各種イベント等の充実や情報検索のしやすさを求める声が多かった。

(11) 市政情報をどんな手段で知りたいか

市政情報をどんな手段で知りたいかについては、「広報うつのみや」が約6割であった。

3. 宇都宮市の景観について

(1) 宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるか

宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるかについては、「非常に良くなった」と「どちらかかというとも良くなった」を合わせた【良くなった(計)】が約5割であった。一方、「変わらない」は3割半ばであった。

(2) 「宇都宮らしい景観」とは何か

「宇都宮らしい景観」とは何かについては、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」が4割強で最も高く、次いで「鬼怒川など郊外の豊かな自然を感じる河川」が2割半ばと続いている。

(3) 良好な都市景観の形成に必要なこと

良好な都市景観の形成に必要なことについては、「道路上の電柱・電線類の地中化」が約5割で最も高く、次いで「沿道や都心部の緑化の推進」が3割弱、「周辺景観に調和していない屋外広告物(看板)の撤去や規制」が2割強と続いている。

(4) 屋外広告物についての印象

景観を形成する要素の一つである屋外広告物の印象については、「悪い」と「どちらかといえば悪い」を合わせた【悪い(計)】が5割弱であった。

(5) よりよい景観形成のため屋外広告物の基準を強化する地域

よりよい景観形成のため屋外広告物の基準を強化する地域については、「豊かな自然景観を眺望できる地域」が約4割で最も高く、次いで「商業施設やオフィスビル等が立地する地域」が4割弱、「主要な道路や交差点周辺等の地域」が約3割と続いている。

4. 食品ロスの削減について

(1) 「食品ロス」が問題となっていることの認知度

「食品ロス」が問題となっていることの認知度については、「よく知っている」と「ある程度知っている」を合わせた【知っている（計）】が9割弱であった。

(2) 「食品ロス」を減らすために取り組んでいること

「食品ロス」を減らすために取り組んでいることについては、「残さずに食べる」が約6割で最も高く、次いで「冷凍保存を活用する」が6割弱と続いている。

(3) フードバンク活動の認知度

フードバンク活動の認知度については、「よく知っている」と「ある程度知っている」を合わせた【知っている（計）】が約5割であった。

5. 特別支援教育について

(1) 「発達障がい」についての認知度

「発達障がい」についての認知度については、「よく知っている」と「どのようなものか、ある程度知っている」を合わせた【知っている（計）】が7割半ばであった。

(2) 「特別支援教育」についての認知度

「特別支援教育」についての認知度については、「よく知っている」と「どのようなものか、ある程度知っている」を合わせた【知っている（計）】が6割弱であった。

6. 結婚・出産・子育てに関する意識について

(1) 結婚しているか

結婚しているかについては、「結婚している」が約6割、「結婚していない」が約2割、「結婚したことがあるが現在はしていない（離死別含む）」が2割弱であった。

(2) 結婚するつもりがあるか

結婚するつもりがあるかについては、「いずれ結婚するつもり」が3割半ばであったのに対し、「結婚するつもりはない」が6割弱であった。

(3) 結婚している場合、全部で何人のお子さんを持ちたいか

結婚している場合、全部で何人のお子さんを持ちたいかについては、「2人」が5割半ばであった。

(4) 結婚を予定している場合、子どもは何人ほしいか

結婚を予定している場合、子どもは何人ほしいかについては、「2人」が4割半ばであった。

7. 空き家及び防犯・交通安全に関する意識について

(1) 管理が不十分な空き家が増えていると感じるか

管理が不十分な空き家が増えていると感じるかについては、「変わらない」が約6割で、「増えている」が3割半ばであった。

(2) 近所の空き家の活用方法

近所の空き家の活用方法については、「住宅のままの利用」が3割半ば、「管理されていれば空き家のままで良い」が3割強、「カフェなどの飲食店」が約3割であった。

(3) 「宇都宮空き家会議」の認知度

宇都宮空き家会議の認知度については、「知っている」が1割強だったのに対し、「知らない」が9割弱であった。

(4) 安心して暮らすことができていると思うか

安心して暮らすことができていると思うかについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う（計）】が約9割であった。

(5) 自転車保険の加入状況

自転車保険の加入状況については、「普段自転車を利用しておらず保険には加入していない」が4割半ばであった。

8. いちご一会とちぎ国体・いちご一会とちぎ大会について

(1) 栃木県で国体が開催されることの認知度

栃木県で国体が開催されることを知っているかについては、「知っている」が8割弱であった。

(2) ボランティア活動で、とちぎ国体に参加したいか

ボランティア活動で、とちぎ国体に参加したいかについては、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う（計）】が2割半ばであった。

(3) ボランティア情報の入手方法

ボランティア情報の入手方法については、「広報紙」が5割半ばで最も多く、次いで「新聞・広告」が5割弱、「TV, ラジオ」が4割強と続いている。

(4) 国体を盛り上げるために重要だと思うこと

国体を盛り上げるために重要だと思うことについては、「来訪者に対する心のこもったおもてなしの提供」が約5割で最も多く、次いで「観光情報を発信する市の魅力紹介」、「会場周辺をきれいにする環境美化活動」が4割半ばと続いている。

9. 生物多様性について

(1) 生物多様性という言葉の認知度

生物多様性という言葉の認知度については、「聞いたことはあるが、意味は知らない」が4割半ばで最も高く、次いで「言葉も意味も知っている」が3割半ばであった。

(2) 外来種が及ぼす影響についての認知度

外来種が及ぼす影響についての認知度については、「知っている」が6割半ばで最も高く、次いで「聞いたことはあるが、具体的な影響はわからない」が約3割であった。

(3) 生物多様性を保全する活動に参加したいか

生物多様性を保全する活動に参加したいかについては、「興味がない」が3割半ばで最も高く、次いで「関心はあるが、時間がなくて参加できない」が3割強であった。

10. 自転車のまちづくりについて

(1) 自転車の利用頻度

自転車の利用頻度については、「ほとんど利用しない」が6割半ばであった。

(2) 宇都宮市は自転車を使いやすいまちだと思うか

宇都宮市は自転車を使いやすいまちだと思うかについては、「あまりそう思わない」と「そうは思わない」を合わせた【そう思わない(計)】が約6割であった。

(3) 自転車のまちづくりを進めていくために必要な取り組み

自転車のまちづくりを進めていくために必要な取り組みについては、「安全・安心に自転車を走行できる環境づくり」が7割弱で最も多く、次いで「自転車の走行ルール・マナーの徹底」が6割半ば、「中心市街地での駐輪しやすい環境づくり」が約4割と続いている。

11. 「大谷石文化」の日本遺産認定

(1) 「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことに関する認知度

「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことに関する認知度については、「知っている」が5割強であった。

(2) 「大谷石文化」を誇りに感じるか

「大谷石文化」を誇りに感じるかについては、「感じる」と「やや感じる」を合わせた【感じる(計)】が約7割であった。

12. 「まちづくり活動」への意識について

(1) 「まちづくり活動」の参加状況

「まちづくり活動」の参加状況については、「現在、参加している」が2割半ば、「今は参加していないが、今後ぜひ参加したい」と「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」を合わせた【参加したい(計)】が3割強であった。

(2) 参加中または興味があるまちづくり活動の種類

参加中または興味があるまちづくり活動については、「地域の安全・安心を守るための活動」が2割強で最も高く、次いで「地域の環境や自然等を守るための活動」、「スポーツ・文化・芸術の普及啓発等に関する活動」が約2割で続いている。

(3) まちづくり活動に参加したいと思わない、または参加できない理由

まちづくり活動に参加したいと思わない、または参加できない理由については、「参加する事に興味や関心がない」が3割弱であった。

13. 「SDGs」(エス・ディー・ジーズ) について

(1) 「SDGs」についての認知度

「SDGs」についての認知度については、「SDGsについて全く知らない(今回の調査で初めて認識)」が約7割であった。

(2) SDGsについて知っている内容

SDGsについて知っている内容については、「17個のゴール（目標）があることを知っている」が7割弱で最も高く、次いで「国連で決められた国際社会全体の目標である」、「持続可能な開発に関する2030年を期限とする世界目標である」が6割強で続いている。

(3) SDGsについて知った手段

SDGsについて知った手段については、「インターネット」が6割強であった。

14. 男女共同参画について

(1) 家事・育児・介護それぞれに費やした時間

家事・育児・介護それぞれに費やした時間については、家事は、「7時間以上21時間未満」が約4割であった。育児は、「対象者なし」を除く「7時間以上21時間未満」が約1割であった。介護は、「対象者なし」を除く「0時間以上7時間未満」が1割弱に満たなかった。

(2) 社会的な活動の実施状況

社会的な活動の実施状況については、「特になし」が約6割で最も高く、次いで「自治会やまちづくりなどの地域活動」が約2割、「文化、スポーツなどのグループ活動」が1割強と続いている。

(3) 配偶者からの暴力を受けた経験

過去1年間に、配偶者から暴力を受けたことがあるかについて、「心理的攻撃」「経済的圧迫」「身体的暴行」「性的強要」いずれも「まったくない」は6割半ば以上であった。「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせた【経験あり（計）】は、「心理的攻撃」が最も高かったが1割弱に満たなかった。

(3) LGBT（エルジービーティイー）の認知度

LGBT（エルジービーティイー）の認知度については、「言葉も内容も知っている」が5割強で最も高く、次いで「言葉だけは聞いたことがある」が約3割、「全く知らない」が1割半ばであった。

15. 雨水貯留・浸透施設の補助金制度について

(1) 雨水貯留・浸透施設の認知度

雨水貯留・浸透施設の認知度については、「知っている」が約4割で最も高く、次いで「名前は聞いたことがある」が3割強、「全く知らない」が3割弱と続いている。

(2) 雨水貯留・浸透施設の設置に対する補助金制度の認知度

雨水貯留・浸透施設の設置に対する補助金制度の認知度については、「知っている」が約3割だったのに対し、「知らない」が約7割であった。

(3) 雨水貯留・浸透施設の設置効果についての認知度

雨水貯留・浸透施設の設置が浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながるものの認知度については、「知っている」が3割半ばだったのに対し、「知らない」が6割半ばであった。

(4) 雨水貯留・浸透施設を設置したいと思うか

雨水貯留・浸透施設を設置したいと思うかについては、「わからない」が約6割であった。

(5) 雨水貯留・浸透施設の設置希望・既設置の理由

雨水貯留・浸透施設を設置したい、または既に設置してある理由については、「雨水を庭木の水やりに利用するため」が5割弱で最も高く、次いで「水の節約になるため」、「浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながるため」が4割半ばで続いている。

(6) 雨水貯留・浸透施設を設置したくない理由

雨水貯留・浸透施設を設置したくない理由については、「敷地に設置できる場所がないため」が5割半ばで最も高く、次いで「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」が5割弱、「自己負担があるため」が約3割で続いている。